



平塚市地域教育力ネットワーク協議会

～1997から2017 そして次の20年へ～

発足までの経緯

（「非行防止」から「生きる力へ」）

昭和56年 中学校区非行化防止推進団体発足

昭和60年 平塚市中学校区青少年健全育成連絡協議会発足

各中学校区の組織化（連絡調整機能を重視）

地域の特殊性を盛り込んだ活動

<課題> 学校週5日制へ移行（子どもの居場所づくり）

いじめ・不登校など子どもを取り巻く問題・環境の変化

平成9年

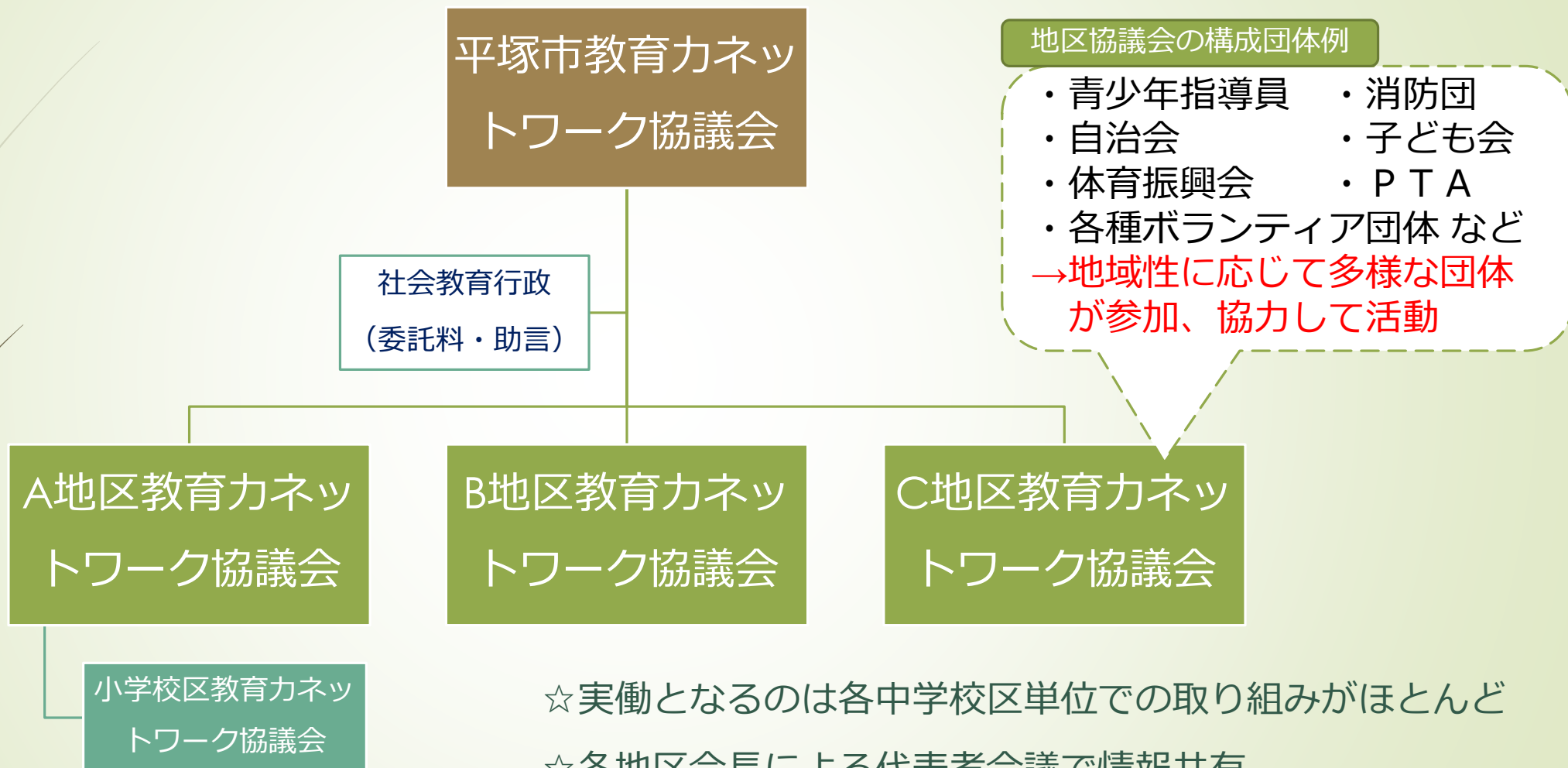
平塚市地域教育力ネットワーク協議会発足

平成29年 発足20周年

基礎データ

- 【名称】平塚市地域教育力ネットワーク協議会<教育力ネット>
- 【目的】地域社会の中で、子どもたちが世代間交流、社会体験、自然体験、ボランティア体験等を積み重ね、「生きる力」を育むことができるよう、次世代を担う子どもたちの教育環境づくりを目指した地域教育力のネットワークづくりを推進する。
- 【構成】平塚市にある15中学校区の地区教育力ネットワーク協議会と健全育成協力者会、全16団体で構成
- 【所管】平塚市教育委員会 社会教育部 社会教育課
(委託事業)

組織図



小学校区にも設置するかは地域の状況に寄ります。

事例紹介① 共通事業

こどもサポート看板の設置

- 子どもたちが事件や事故で困ったとき、駆け込む目印になる看板を作成し、地域の住民や店舗などに設置を呼び掛けます。

地域安全パトロールの実施

- 夜間、登下校時、長期休暇時などに地域のパトロール活動を行います。

研修会への参加

- 地域教育、家庭教育に関する研修会を開催し、研鑽の機会を持ちます。



全地区共通事業「こどもサポート看板」

発足時から平塚市全域に設置を呼びかけ続け、現在では2,000枚を超える設置数となっています。

設置に賛同する市民や団体からの要請を受け看板を配布し、緊急時の駆け込みスポットとして子どもの安全確保の協力をいただいています。（毎年、新一年生向けにPRチラシを配布）



全地区共通事業「地域安全パトロール」

地域青少年の安全と健全育成のため、各地区で定期的にパトロールを行っています。

防犯マップを作成し、注意すべきスポットを可視化している地域もあり、地域に根差して継続していることが確かな財産となっています。

事例紹介② 各地区事業

地区ごとの「人・もの・こと」を活かし、ニーズに応じた様々な活動を通して、子どもの生きる力を地域全体で育むことを目指します。

防災キャンプ

郷土かるた大会

クリーンカップ
(ゴミ拾い)

芸術文化体験教室

ナイトハイク

通学合宿

灯ろう流し

防犯マップ作製

...などなど

事例紹介②-1 <江陽> そうぜん防災キャンプ

地域と学校が協働し、防災キャンプを行います。ハシゴ車体験も消防との連携で実現しています。

宿泊は体育館に段ボールハウスを作成し、被災時を想定した取り組みとなっています。

また、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行うことで、事業のコラボレーションがなされています。



事例紹介② - 2 <港> 郷土いろはカルタ大会

今年度39回目を迎えた長い歴史のあるカルタ大会です。

会場である港小学校には地域から多くの団体の出席があり、地域の新年恒例行事として定着しています。

小学生の頃に参加していた子が中学生になり、ボランティアで読み手を務めるなど、成長に応じた地域での役割を感じることができる取り組みとなっています。



事例紹介② - 3 <富士見> 富士見夏まつり

ただの地域の夏祭りにとどまらず、消防署や警察署などの協力を得てハシゴ車体験、白バイ試乗など、子どもの社会性を好奇心を喚起しながら育成しています。

地域の人が一堂に会し、一緒に楽しむことは地域教育力の向上に大きく寄与しています。



事例紹介② - 4 <浜岳> たのしい科学教室

花水公民館と協力して行う、子どもの知的好奇心を育てる取り組みです。

地域に住む現役・OBの技術者の確かな指導はもちろん、中高生で組織する浜岳リーダーズクラブ（HLC）の積極的な協力で、子どもと大人のつながりができています。



事例紹介② - 5 <大野> 大野クリーンカップ

ゴミ拾い活動を、単なる清掃・美化運動というだけでなく、ゲーム形式でイベント化した取り組み。

参加した生徒からは

「普段とちがう目線でまちを見ることができる。こんなところにゴミを捨てる人は誰だろう、と考えてしまう」

と、ごみの多さに驚く声も。

ゲーム形式となっていることで楽しく続けられ、地域の大人と子どもの交流の場ともなっています。



事例紹介②－6＜神田＞ 芸術文化子ども体験教室

神田ネットでは平成28年度から生け花の体験教室に取り組んでいます。

日本の伝統文化を体験する機会を提供し、子どもの関心や視野を広げるきっかけづくりを進めます。



平成29年度にはSCNの地域ニュースとして取り上げられました。

事例紹介② - 7 <土沢> 芸術文化子ども体験教室

平成28年度に初めて開催し、翌年も継続して実施しています。

土沢中学校の施設を使い、毎回とても盛況な取り組みとなっています。

また多数の地元自治会、学校長、公民館長等が訪れ、地域全体の関心がうかがえます。

会報誌でも当日の様子を詳しく取り上げ、周知しています。



事例紹介② - 8 <金旭> 大山ナイトハイク

夜を通して大山まで歩き、山頂でご来光を迎えます。

平成27年度には広報ひらつかの1面で特集が組まれるなど、地域一丸の取り組みとしてとても規模の大きなものとなっています。



事例紹介② - 9 <中原> 芸術文化子ども体験教室

中原地区では芸術文化子ども体験教室を平成29年度に新たに実施しました。

初回ながら生け花・茶道・人形芝居の体験を1日で行い、またパンフレット作製、中学生ボランティアには講師ヘインタビューを行ってもらするなど、多彩な取り組みとなりました。



事例紹介② - 10 <おおすみ> 芸術文化子ども体験教室

おおすみ地区も芸術文化子ども体験教室を平成29年度に新たに実施しました。

大住中学校の協力を得て特別教室を使用し生け花を体験しました。

来年以降の定着を目指します。



事例紹介② - 11 <山城> ウォークラリー「ヤマシロでGO」

地区で長年続いているウォークラリーを「ヤマシロでGO」とタイトルを改め、活性化を図っています。

地域の状況を知るとともに、低学年と高学年、小学生と中学生、子どもと大人の交流が図られ地域の持続性を高めます。



事例紹介② - 12 <神明> 冬芝の種まき

神明中ネットでは地区の皆様の御協力の元、八幡小の校庭を使って冬芝の種まきを行いました。

地域の大人と共に作業をしながら交流することで、子ども達は地域社会から愛され、見守られていることを実感しながら、自然への興味を養っています。

さらに、交流を通じて世代を超えて、母校を愛する心も育まれています。



事例紹介② - 13 <金目> 金目通学合宿

2泊3日公民館に寝泊まりし、家族から離れ集団生活をしながら学校に通う取り組みです。

普段親の手で行われがちな家事を経験することで生活力を養っています。

お風呂は「もらい湯」に行き、よその家での振る舞いを学びつつ、地域の大人との交流を深めています。

日常の中では意識しないようなことでも、他人と寝食をともにしている内に、**自分ができること・できていないことを客観的に把握**することができ、その後の子どもの成長に役立っています。



事例紹介② - 14 <横内> 横内マイタウンスクール

地域教育の拡充を目指した「多世代総合交流型スクール」を展開しています。

早期から秋津コミュニティスクールを参考にし、学校を拠点にした地域づくりを意識しているため、各種の体験活動に取り組む一方で、大学生や若い世代の保護者に主体的に企画運営に取り組んでもらい、次代の担い手を育てる地域づくりが進んでいます。

「まちづくりはひとづくり」

平塚市における「土曜日の教育支援体制等構築事業（文科省）」適用地区であり、他地区のモデルとなっています。



事例紹介② - 15 <旭陵> 防災一泊キャンプ

平成29年度で15回目を迎えた防災キャンプ。

教室一室を煙で満たして、実際に災害があった時の避難の難しさを実感する「スモークハウス」など、地域と学校が協力して質の高い事業となっています。

防災対応力に限らず、多くの地域の人々が協力することで地域教育力が向上します。



事例紹介② - 16 <健全育成> 健全育成キャンペーン

毎年2月に平塚駅前で行われるベルマーレワンダーランドにおいて、子ども健全育成啓発キャンペーンを行っています。

地区単位でない青少年健全育成協力者会ならではの広い範囲への働きかけがはかられています。



事例紹介② - 17 芸術文化子ども体験教室

平塚市教育委員会と市内各種文化団体による「芸術文化子ども体験事業」を教育力ネットのネットワークを活かして展開しています。

本来の目的である、日本の伝統文化や礼儀作法体験・世代間交流という効果だけでなく、新しい取り組みを検討している地域にモデルを示しサポートすることで、行政は事業目標の達成と規模の拡充、教育力ネットでは地域間で活動の格差軽減という双方にメリットのある取り組みとなっています。

<本事業を採用している教育力ネット数>

平成27年度：4地区

平成28年度：6地区

平成29年度：8地区

  **半数以上の地区へ拡大しました！**



教育カネット活動 3つのポイント

世代間交流

地域
づくり

異なる世代が交流する機会を積極的に設けることで、知識や経験の継承に加え、地域に「顔なじみ」が増え、あらゆる面での子どもの成長につながります。

社会体験

人
づくり

実際の生活や社会、自然に触れる体験を提供し、自分が住む地域や風土への理解や親しみを育て、社会性を広げます。

ボランティア体験

人
づくり

地域や社会のために役立つ奉仕活動を体験してもらうことで、成長段階に応じた役割を認識し、地域の中での自分に肯定的な評価が持てるよう促します。

今後の継続と発展のために

- ・楽しくないと人は集まらないし続かない。
- ・いきなり新しいこと、難しいこと、大変なことをやらない。
- ・楽しそうにしている大人を見て、子ども達も後に続ける

楽しむ

- ・今必要な取り組み、ニーズはなんなのか
- ・マンネリ化していないか
- ・子どもを取り巻く環境はどう変わってきているのか
- ・何のためにこの事業をしているのか...などなど、大人たちが試行錯誤していく姿勢

育てる

- ・積極的に地域内で人材を育てていく（中学生ボランティアなど）
- ・人の交流をより活性化させ、新しい担い手が出てこられる土壌を広げる。

学ぶ



市の役割

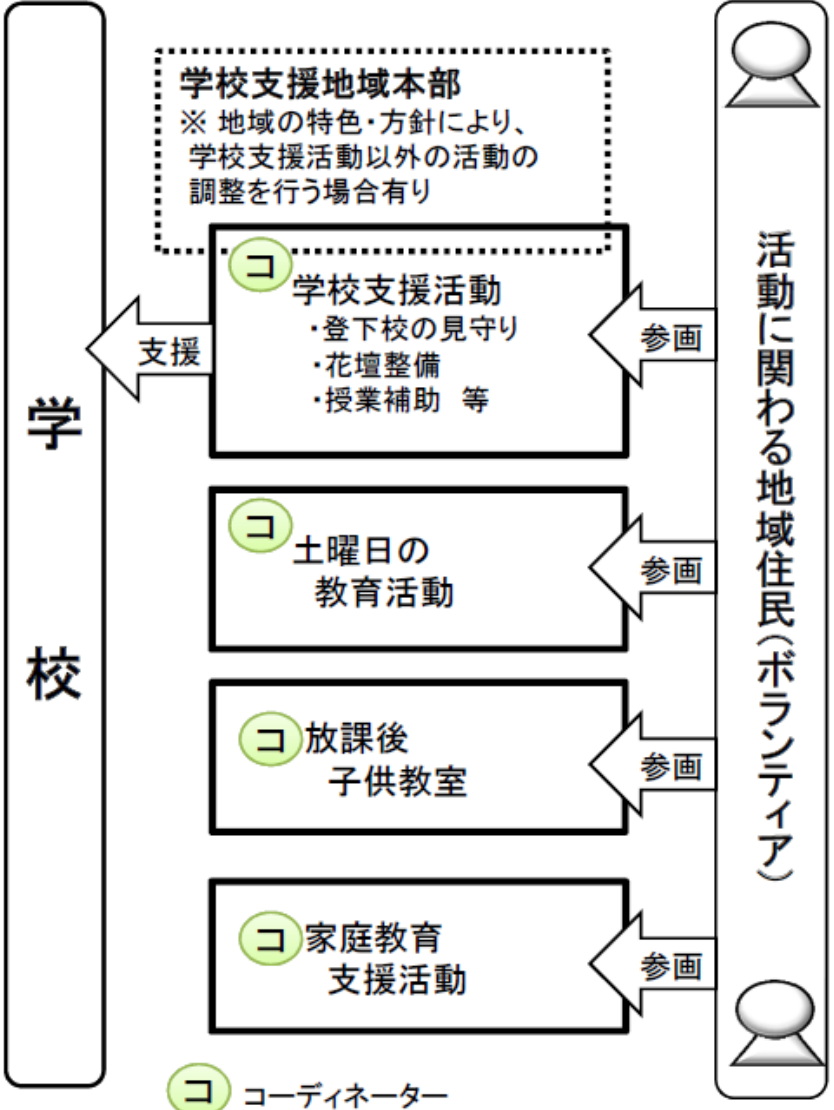
- ・情報のサポート（法令、制度など）
- ・機会のサポート（研修、講演など）

(参考) 「地域学校協働本部」について

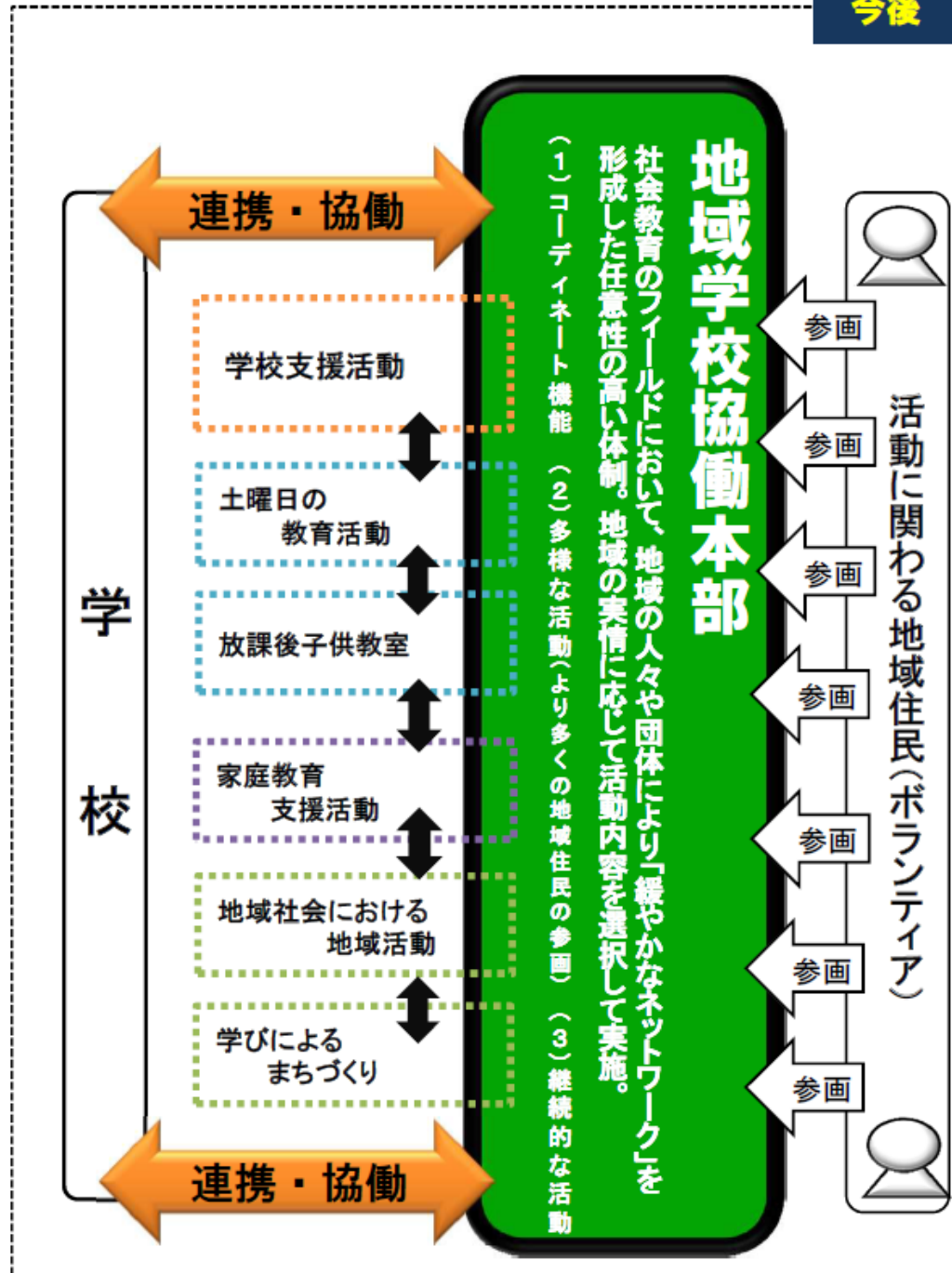
- ▶ 現在文部科学省では「地域学校協働活動」を推進しています。
「地域学校協働活動」は幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し行う活動のことです。
- ▶ この活動を推進するために有効と考えられているのが「地域学校協働本部」の設置です。次項ではその概念図を紹介します。
- ▶ 個別の活動のネットワーク化がポイントになっていますが、これは地域の教育力のネットワークづくりを目的とする平塚市地域教育力ネットワーク協議会の取り組みに近いものと考えられます。

【これまでの課題】

- ・それぞれの活動ごとにコーディネートがなされ、必ずしも横の連携が十分でない。
- ・コーディネート機能の大部分を特定の個人に依存し、結果として、持続可能な体制がとられていない場合も多い。



・「支援」から「連携・協働」へ
 ・個別の活動の総合化・ネットワーク化
 ・コーディネート機能の充実



次の20年 これからの取り組みに向けて

学校や公民館との連携


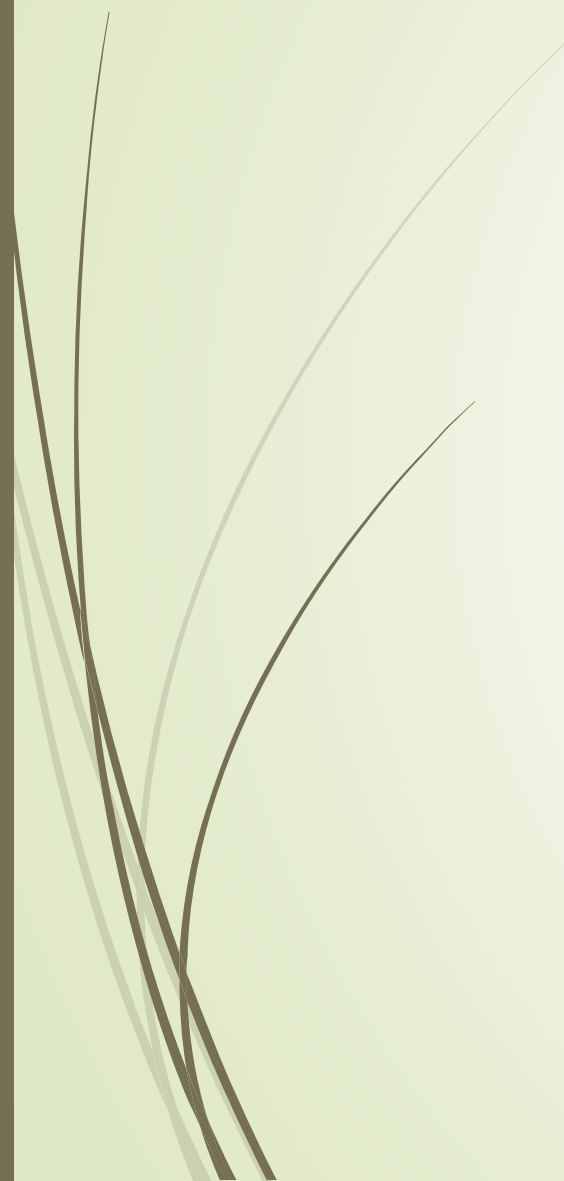
- 地域の拠点となる学校や公民館と連携を深め、互いのニーズや意識を共有し、協働して課題の解決や事業の向上につなげることが求められます。

コーディネーターの育成

- 次の担い手を育てるには、教育力ネットの活動目的や意義に関わる人たちに理解してもらうことが大切となります。

教育力ネットの周知と強化

- 転居してきた人や、独自に活動を始めているボランティア団体等へPRや連携協働を図ることで、地域教育力はさらに充実する可能性があります。

- 
- 
- 製作 平塚市地域教育ネットワーク協議会
 - 編集 平塚市教育委員会 社会教育課